



三徳開教110年

# 法音

今月の  
ご法話

支えられていることに

感謝しましょう

平成29年  
6月号 No.572



日蓮宗  
法音寺



# 一人が一人を

## 是非一人は

是非一人は、仏となれる人に導きましよう。  
法華経には、一人を導く功德は広大である  
とあります。

その一人が、他の人を導く功德が又大きい  
のです。

ついに一人を導く人が仏となります。

一人を導く人が極楽に住む人となります。

一人一人が極楽に住む人、仏になるのです。

御開山上人御遺訓『おりにふれて』

## 月刊・法音

平成二十九年六月号「572」

■目次■

### 【信仰の指針】扶助ふじよ

【朝のこない夜はない】

支えられていることに

感謝しましょう

山首 鈴木正修

2

### ■講日のご案内

■有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください

■特別企画・聖の教え(十八)

■ここのはの記 ご先祖さまへのご恩返し

■読者の声 原 美智子(東京支院)

■浄心道場が開催されました

■のりのもと 西に東に 転法輪・支院だより

■法音寺のホームページが新しくなりました!

■福祉のひろば 少子・高齢社会の中の日本の福祉

■福祉に生きる 昭徳会・児童養護施設名古屋養育院の実践

■日本福祉大学・持続可能な「ふくし社会」を担う。ふくし・マイスターの養成

■幸せの種まき／編集後記

■連載まんが・ひまわり・54 母さんってたいへん

■法音寺関連書籍のご案内

■法音寺の社会福祉・教育事業

### 表紙題字・信仰の指針 山首上人さま

表紙写真・西洋ポタン

掲載写真 表紙・信仰の指針・3〜17頁…梅田雅臣氏撮影

2頁…加納将人氏撮影

81

80

78

66

64

62

42

38

36

32

20

18

17

1

信仰の指針

扶ぶ助じょ

支えあっていますか

日教五





# 朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

支えられていくことに

感謝しましろう

歌舞伎役者・市川海老蔵さんの奥さん、小林麻央さんは現在、ステージ4のガンで闘病生活を送っておられます。勇気をもってガンであることを告白され、それ以来、毎日ブログを更新されています。子どもの運動会に参加して非常に楽しかったとか、体調が悪く歩くのがつらくなったなどの報告に、日本中の人が一喜一憂し、応援しています。この応援の力、支えは大きいと思います。しかし、一番大きいのはご家族の支えです。ご主人の海老蔵さんやお姉さんの小林麻耶さん、お母さんの支えが本当に大きいと思います。



『幸せはガンがくれた』というロングセラーの本があります。副題は「心が治した12人の記録」です。著者の川竹文夫さん自身も、NHKのプロデューサー時代に腎臓ガンを克服された経験をお持ちです。その川竹さんは、ガンは心が治すものと確信し、心でガンを治した人たちを取材されました。

当時、12人のうちのひとり、堀江龍男さんは、肝臓ガンが寛解してから八年ほどが経っていました。堀江さんは50代でガンを発症したのですが、当時は、ガンを告知しない時代でした。最初に、奥さんが担当医に呼ばれ「手術をしても一年、手術をしないと半年の命」と言われたそうです。その時、担当医には「ご主人には内密に」とアドバイスされたのですが、奥さんは家に帰って堀江さんにガンのことを話しました。堀江さんはそれを聞いて背筋が寒くなり、震えがきてどうしようもなくなつたといひます。当時、ちょうど石原裕



次郎さんがガンで亡くなった後でしたので「石原さんも肝臓ガンで亡くなったな」とか「友だちも胃ガンですぐに死んでしまったな」ということばかりが頭に浮かんできたそうです。

その後奥さんの「食事療法を試してはどうか」との言葉に、堀江さんは「切っても切らなくても半年か一年ならそっちでやってみるか」と玄米菜食をとりいれました。東京にあるクリニク先生の食事指導を受けて始めたそうです。始めた当初は効果もなく、堀江さんは寝たきりの生活だったそうですが、二カ月くらい経つと少し良くなってきて、布団から起き上がり、歩けるようになりました。そのうちに気づいたら半年が経っていました。

何事もなく一年が経過し、「もう治ったのかもしれない」と思った矢先に、血便と血痰が出たそうです。堀江さんは「ああ、やっぱり治ってなかったんだ。一



時的な小康状態だったんだ。ダメかもしれないな」と思ったと言います。すると奥さんが「お父ちゃん、それは良かったね。悪いものが出たのよ」と言ったそうです。それを聞いた堀江さんも不思議と「悪いものが出て良かった」と思えるようになったと言います。

その後は本当に良くなって血便や血痰も出なくなり、三年くらい経った時、病院でエコー検査を受けたところ、ガンがすっかり消えていたということです。

この取材を受けた時、堀江さんは「これだけは川竹さんに言っておきたいのですが、この病気を治してくれたのは食事療法ではありません。治してくれたのは家内です。家内の心の支えがあって私は治ったのです。いやあ、本当に家内はありがたいです」と言われたそうです。

本人の心のかや免疫力は大事ですが、やはり周りの支え、そして、周りの人の積む功德によってそれが大



きくなるのだと思います。

『週刊朝日』という雑誌に毎週、「平成夫婦善哉」という、仲の良いご夫婦のインタビューが載っています。ある週の川田龍平さんご夫妻のインタビューが私の目に留まりました。

川田さんは「薬害エイズ訴訟原告団」の中心になつた人ですが、血友病という血の固まらない病気を患つておられます。この病気を患う方は、出血の際に血が固まるように血液製剤を投与します。その血液製剤にHIVウイルスが入っていたのです。

川田さんがHIVウイルスに感染したのは子どもの頃でした。ですから子どもの頃から、同じ境遇の人がエイズを発症して亡くなつていくのを何人も見て、自分も多分長くは生きられないなとずっと思つていたそうです。そこで、薬害や人為的なトラブルに



よって人が死ぬことは絶対に避けなければいけない  
と強く思い、「薬害エイズ訴訟原告団」の中に入りま  
した。

川田さんは、自分はいつ死んでもおかしくない。結  
婚なんかできないだろうと思っていました。また、  
相手を不幸にするかもしれないと思うと、結婚をして  
はいけないとも思っていたそうです。

ところが、ジャーナリストの堤未果さんと出会い、  
彼女に一目惚れをして、二回目のデートで早くもプロ  
ポーズをしました。その時の言葉です。

「僕は今まで、自分の命は短いと思っていた。いつ死  
んでもいいと思っていた。でも、あなたに出会ってか  
らは一日でも長く生きたいと思うようになった」

しかし、返事がなかなかもらえなくて、デートする  
たびにプロポーズをしたそうです。それがある時、未  
果さんの心に、結婚しようというひらめきがあって、



プロポーズが受け入れられたと言います。

川田さんと結婚するにあたり、未果さんはある条件を出しました。

未果さんは以前、アメリカ同時多発テロで被害に遭ったニューヨークの世界貿易センタービルの横のビルに勤めていました。あのテロを間近で見、人が大勢亡くなるのを目にした未果さんは、人はいつ死ぬかわからないと強く思ったそうです。

そこで川田さんに「いつ死ぬかわからないけれど、とにかく私よりも一日でも長く生きること」という条件を出したのです。それと、川田さんが口癖のように言っていた「自分はどうせ長くは生きられない」という言葉を今後、絶対に口にしないこと」も付け加えました。言葉は「言葉」とも言います。言葉には大きな力があるから、絶対に悪いことは口にしないでほしいと求めたのです。



そして「今日一日を大切に生きたいから夫婦喧嘩はしないようにしましょう。どうしても喧嘩してしまつたら、必ずどちらかが家を出るまでに仲直りをしましよう。喧嘩をしたまま、どちらかが死んでしまつたら、ものすごく後悔するから」とふたりは約束を交わし、結婚したのです。そして結婚後、健康状態が劇的に良くなつたのです。

HIV感染者は定期的に、免疫状態とウイルスの量を計るそうです。

未果さんとの約束を大切にして、一日でも長く生きよう」と誓つた川田さんが、検査でウイルスの量を計つたところ、ウイルスが非検出になつていたそうです。免疫力を示すCD4という数値は、健康な人で700〜1300で、HIV感染者は200を切るとエイズを発症するとされていますが、結婚してから1000近くになつたそうです。時に、過労でぐったりしてい



る主治医より高かったことがあるそうです。風邪も引かなくなりましたそうです。

奥さんの支え、また奥さんを大事に思う気持ちが無  
疫力を高めて、エイズウイルスを非検出にしてしまっ  
たのだと思います。

ここまでではご夫婦のお話をしてきましたが、最後は  
友情のお話です。

今から五百年ほど前、ルネッサンスの時代に大活躍  
をした画家アルブレヒト・デューラーは、ドイツのニ  
ュルンベルクで生まれました。デューラーにはハンス  
という友人がいて、二人とも貧しい家の生まれでした  
が、二人とも幼い頃から絵を描くのが大好きで、将  
来は画家になりたいという夢を持っていました。

二人は版画を彫る親方のもとで見習いとして働いて



いしましたが、仕事しごとが忙いそしく全く絵えの勉強べんきょうができません。仕事しごとを辞やめて絵えの勉強べんきょうに専念せんねんしようと思おもいましたが、絵えを習ならうには絵具えのぐやキャンバスや筆ふでを買かうお金かねが必要ひつようです。二人ふたりにはそんなお金かねはありませんでした。

ある時ときハンスがデューラーに「このままでは二人ふたりも画家がになる夢ゆめを捨すてなくてはいけない。しかし、僕ぼくに良い考かんえがある。一人ひとりずつ交代こうたいで絵えの勉強べんきょうをしよう。一方ほうが働あいて相手あいてのためにお金かねを稼かせいで助たすける。そして、勉強べんきょうが終わおったら今度はもう一方ほうが勉強べんきょうするため、勉強べんきょうを終おえた側がわが働あいてそれを助たすけるんだ」と提案ていあんしました。そして、どちどちが先さきに絵えの勉強べんきょうをするか話はなし合あいました。お互たがいが譲ゆずり合あったのですが、結局けっきょくハンスが言いいました。

「デューラー、君きみが先さきに勉強べんきょうしてほしい。君きみの方が僕ぼくより絵えがうまいからきつと早く勉強べんきょうが進すすむと思おもうんだ」  
デューラーはその言葉ことばに感謝かんしゃして、イタリアのベネ



チアへ絵の勉強に行きました。そしてハンスは、お金がたくさん稼げる鉱山に勤めることになりました。

デューラーは、一日でも早く勉強を終えてハンスと代りたいと、寝る時間も惜しんで絵の勉強を続けました。一方、ハンスはデューラーのために朝早くから深夜まで重いハンマーを振り上げ、今にも倒れそうになるまで働いてお金をデューラーに送りました。

一年、二年と年月が過ぎて行き、そろそろデューラーの勉強も終わるかと思っただのですが、勉強すればするほどもっと勉強したくなり、なかなか終わることができません。ハンスは「自分が良いと思うまでしっかりと勉強してくれ。僕は大丈夫だよ」と手紙を書き、お金を送り続けました。

数年経って、ようやくデューラーはベネチアから帰ってきました。その頃には画家として腕を上げ、絵も売れるようになり、かなりの評価を得ていました。



故郷に帰ったデューラーは真っ先にハンスのところに向かいました。

「今度は君の番だよ。長い間本当にありがとう。待たせたね。今度は僕が生活費を稼ぐから思う存分、絵を描いてくれ」

するとハンスは力なく笑い、首を横に振ったのです。「おめでどう。本当に良かったね。でも僕はもうダメなんだ。炭鉱での仕事が多すぎて指が曲がってしまったし、手も震えて絵筆が持てないんだ」

デューラーはショックで「僕のために君は人生を棒にふるってしまった。君を犠牲にしてしまい本当に申し訳ない」と震える声でハンスに詫言いました。自分の夢が叶ったものの、友人の人生を台無しにしてしまったことで、デューラーは罪悪感に襲われる日々を過ごしました。

そして、何か僕にできることはないだろうか



少しでも彼に償いをしたい」と思い、もう一度ハンスの家を訪ねました。ノックをしても応答がありません。しかし、人がいる気配がします。鍵が開いていたので家の中に入っていくと、ハンスの小さな声が聞こえてきました。ハンスは炭鋏で働くことになって曲がってしまった指を合わせ、一心に祈っていたのです。「デューラーは私のことで傷つき、苦しんで、自分を責めています。神さま、どうかデューラーがこれ以上苦しむことがありませんように。そして、私が果たせなかった夢までも彼が叶えてくれますように。あなたの守りと祝福がいつもデューラーとともにありますように」

デューラーは自分の耳を疑いました。

ハンスはきっと自分のことを恨んでいるだろうと思っていたのです。ところが、自身のためでなく、デューラーのために一生懸命祈っていたのです。歪んで



しまった手を合わせ、一心にデューラーのために祈っていたのです。

デューラーはその祈りの姿を見て涙にくれました。そして「お願いだ。君の手を描かせてくれ。君のこの手のお陰で今の僕があるんだ。君のこの手の祈りで今僕は生かされているんだ」と懇願しました。そしてデューラーは、友情と感謝の心を込め、「祈りの手」という題の絵を描きました。

デューラーは非常にたくさんさんの絵を描き、多くの傑作を残しましたが、一番有名なのがこの「祈りの手」です。

人はいろいろな形で家族や友人、多くの人に支えられています。それに対する感謝の気持ちをいつも持つて生きなければいけません。



良い教えの話を聞きましょう。

全国の法音寺各支院・布教所では毎月の講日の中で  
三徳の教えを聞くことができます。

是非講日にご参詣いただき、  
教えを心にしみ込ませましょう。

法音寺本山は毎月7日、17日、27日が講日です。

◆今月の山首上人さまご親修日程

開基堂	6月10日(土) 講日	大阪支院	6月11日(日) 大黒鬼子母尊神祭
平賀支院	6月15日(木) 講日	上野支院	6月18日(日) 大黒鬼子母尊神祭
豊川支院	6月20日(火) 講日	関支院	6月23日(金) 講日

# 有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください。

支院名	今月の講話日	住所	電話番号
大乘山泰明寺	5日・20日	名古屋市中村区名駅2-37-3	☎(052)581-2069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	☎(0587)53-5436
東京支院	3日・15日・24日	東京都練馬区谷原2-6-37	☎(03)3904-1251
山形布教所	10日	山形市長町2-4-6	☎(023)681-0770
静岡支院	2日・12日・22日	磐田市長崎4-7-13	☎(0538)32-6625
豊川支院	4日・20日	豊川市中野川町1-26-3	☎(0533)86-4704
安城支院	11日・18日・28日	安城市新田町小山31-25	☎(0566)76-2504
明川支院	11日・24日	豊田市明川町堂ノ脇1-2	☎(0567)32-1825
佐屋支院	3日・11日・24日	愛西市大井町浦田面296	☎(0568)72-7208
一宮支院	5日・15日・25日	一宮市大江1-7-4	☎(0568)22-5813
西春支院	2日・12日・22日	北名古屋市九之坪東ノ川20	☎(058)245-2939
岐阜支院	3日・14日・24日	岐阜市切通7-15-22	☎(058)388-2740
笠松布教所	12日	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎(0584)78-4854
大垣支院	1日・11日・21日	大垣市宝和町5	☎(0575)22-0776
関支院	3日・13日・23日	関市西福野町2-15-11	☎(0575)23-3771
平賀支院	5日・15日・25日	関市市平賀2-13-2	☎(0575)65-3933
郡上八幡支院	8日・22日	郡上市八幡町小野7-21-3	☎(059)352-3633
四日市支院	3日・13日・22日	四日市市赤堀2-4-7	☎(0595)21-0127
上野支院	1日・11日・18日	伊賀市上野向島町3475	

☎ご連絡は本山寺務局へ

京都支院	1日・9日・20日	京都市上京区北横町360	☎(075)231-3437
高槻支院	4日・21日	高槻市天神町1-9-2	☎(072)685-1003
大阪支院	11日・23日	大阪市此花区西九条3-4-41	☎(06)6465-5051
福井布教所	17日	あわら市春宮3-28-2	☎(0776)73-5234
和泉支院	3日・14日・22日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎(072)466-3112
神戸支院	10日・21日	神戸市兵庫区五宮19-17	☎(078)360-4884
淡路支院	5日・25日	南あわじ市神代国衙910	☎(0799)42-0175
岡山支院	7日・11日・23日	岡山市南区若葉町1-16	☎(086)262-0818
高知布教所	12日	高知市上町5-5-39	☎(088)823-1983
福山支院	1日・18日	福山市西町3-19-5	☎(084)921-3078
三原支院	10日・25日	三原市皆実2-9-22	☎(0848)62-5087
安芸津支院	3日・18日	東広島市安芸津町三津3765-3	☎(0846)45-4012
坂支院	11日	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12	☎(082)885-1064
福岡支院	7日・15日・18日	福岡市早良区城西2-11-37	☎(092)821-7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1112	☎(092)44-5445
筑後布教所	11日・25日	筑後市大字西牟田5954-1	☎(0942)53-7273
天草布教所	1日	上天草市大矢野町維和1502-1	☎(0964)58-0742
田川支院	11日・25日	田川市春日町7-30	☎(0947)42-1819
名古屋地区	7日・17日・27日	名古屋市昭和区駒方町3-3	☎(052)831-7135
瀬戸布教所	9日・19日・29日	瀬戸市東本町2-20	☎(0561)85-6860
亀岡布教所	12日・25日	亀岡市篠町篠牧田73-1	☎(077)25-7807

※開始時刻等については、それぞれにお問い合わせください。(掲載順不同)

特別企画

# 聖の教え

(六)

## 知恩・報恩の事

師しの君きみのあつきめぐみに報むくいなむ

妙たえなる法のりを人ひとにつたえて

御開山上人御詠

### ◆ 經典

◆ 世尊せそん慈愍じみんして快こころく我等われらが爲ために是かくの如ごとき法ほうを説といて、我われをして大おおに法利ほうりを獲えせしめたもう。甚はなはだ爲これ奇特きどくに未み曾有ぞうなり。世尊せそんの慈恩實じおんじつに報ほうすべきこと難かたし。無量義經・十功德品 三三頁

◆ 世尊せそんは大恩だいおんまします。希有けうの事じを以もつて、憐愍教化れんみんきやうけして、我等われらを利益りやくしたもう。無量億劫むりやうおつこくにも、誰たれか能よく報ほうずる者ものあらん。手足しゆそくをもつて供給くききやうし、頭頂ずちゆうをもつて禮敬らいきやうし、一切さいをもつて供養くきやうすとも、皆報みなほうずること能あたわじ。若しは以もつて頂戴ちやうだいし、兩肩りやうけんに荷負かふして、恒沙劫ごうじゃこくに於おいて、心こころを盡つくくして恭敬くきやうし、又美膳またみぜん・無量むりやうの寶衣ほうえ、及び諸もろもろの臥具がぐ・種種しゆじゆの湯藥とうやくを以もつてし、牛頭梅檀ごづせんだん、及び諸もろもろの珍寶ちんぼう、以もつて塔廟たつみやうを起たて、寶衣ほうえを地じに布しき、斯かくの如ごとき等らの事じ、以もつて供養くきやうすること、恒沙劫ごうじゃこくに於おいてすと

も、亦報ずること能わじ。

妙法蓮華經・信解品 一三一頁

◆御書

◇我釋尊の遺法を學び佛法に肩を入れしより已來、知恩を以て最とし報恩を以て前とす。世に四恩あり、之を知るを人倫と名け、知らざるを畜生とす。予父母の後世を助け國家の恩徳を報ぜんと思つが故に、身命を捨つること敢て他事にあらず。唯知恩を旨とする計りなり。

聖愚問答鈔・下 五八五頁

◇夫れ老狐は塚を後にせず、白龜は毛寶が恩を報ず、畜生すら斯の如し、況や人倫をや。

報恩鈔・上 一四一五頁

◇父母の恩を報ぜよとは、父母の赤白二滯和合して我が身となる。母の胎内に宿る事二百七十日、九月の間三十七度死するほどの苦みあり。生み落す時堪えがたしと思ひ念ずる息、項より出づる煙梵天に至る。さて生み落されて乳を飲む事一百八十餘石。三年が間は父母の膝に遊び、人となりて佛教を信すれば、先づ此の父母の恩を報ずべし。父の恩の高き事須彌山猶ひきし、母の恩の深き事大海返りて淺し。相構えて父母の恩を報ずべし。

上野殿御消息 一三四七頁

## ◆安立大法尼

**母の十恩** 父母のご恩につきましては、今さら事新しく申し上げるまでもありません。父は終日外に出て世業のために働き、衣・食・住の基を作って一家の生計をたて、母は家事万端を整え、昼夜養育のため、心身を勞するのであります。中にも母のご恩はことさらに心肝に染みて貴く思われます。

**第一懐妊守護の恩** 懐妊後九か月の間は起居も意の如くならず、仮初の物の響きにも驚き騒ぎ、心を休むる暇もありません。

**第二飲食禁忌の恩** 懐妊後は五味の味わいを失い、朝夕の食も進まず、たまたま欲する食味も、禁毒を怖れて食せないのであります。

**第三臨産受苦の恩** すでに産の気萌せば、疼痛五臓を裂くが如く、八寒八熱の苦患というもこれに勝るべきものはありません。

**第四生死忘憂の恩** 産に臨み生死の間を彷徨しつつも、ただ出産の児の五体具足せんことをのみ願うのです。

**第五初声聞夢の恩** すでに産み落とし、心も遠く、魂も消えぬべく、夢に夢見る如き間にも、一度初声耳に入れば、我が身の生死を忘れ、はや愛憐の心を生じ、健やかに成長せんことを願うのであります。その慈悲心は、何を以って譬うべきものがありますでしょうか。

第六養育覆衣の恩 初声を初めとして、寒暑の衣服に心をゆだね、冬は暖かに、夏は涼しく、春の日長しと雖も花を見捨てて乳房を含め、夏の夜短しと雖も諸虫を払い、安々夢も結びません。

第七親疎朋友の恩 他の小児と交わり遊ぶころとなれば、我が子はもとより他人の子にも食物

等を分かち与え、遊戯の具等備えてその機嫌をはかるのも、子を思うの余りであります。

第八遠路遊行の恩 ようやく成長して、遠国他境に行く時は我が子の行方を思い、家路に帰る

時まで胸を休むる暇もありません。

第九龐悪蔽履の恩 我が子もし罪を犯せば、他人の見聞かんことは申すにおよばず、父にさえ

も覆い隠し、あるいはその罪を身に蒙り、時々諫め正すのです。

第十壽命因福の恩 我が子もし疾病ある時は、天に祈り、地に祈り、薬餌のために心身を勞し、

甚しきにいたっては、我が命に代わらんことをも願うのであります。

以上を母の十恩と申し、上は貴きより、下は貧しき民にいたるまで、一人としてこのご恩を

受けざる者はありません。父母のご恩は実に、山よりも高く、海よりも深いのです。仏は「三

千大千の国に代うべき物はなし」と仰せです。

されば、このご恩を忘れ、わがまを振り舞いたる者は、この重恩を思い起せば後悔の涙が湧き出づるであります。また、人たる者は、この鴻恩に報いん程の孝養をしたいと思う

でしよう。しかし「孝行のしたい時分に親はなし」との古語の如く、自ら反省して孝養せんとする時はすでに親はいませず、悔ゆる者が多いのであります。

始祖・御法話集 八一頁

誠の孝行 父母の大恩に報いんとせらるる孝養の方々は、行住坐臥、道を歩む折、仕事の最中も、休らいたる時も、倦まず弛まず、南無妙法蓮華經、南無妙法蓮華經と唱え、身には布施・持戒・忍辱・精進・禪定・仏智の六波羅蜜の修養をして功德を積んでください。我らの体は父母の遺徳なるが故に、我が身に功德を積めば、必ず父母に報ゆることができます。父母はおろか、上無量生の祖先までも、六道を離れしめることができます。

これが誠の孝行であります。必ず諸仏は歡喜せられ、この孝子を昼夜に守護せられます。諸仏善神に守護せられたならば、咄嗟の災難に遭うこともありません。必ず、日々安心して暮らすことができます。また、自分の目的を達成することもできます。会員各位は皆、誠の孝子となつて、世人の模範となるよう努力してください。

始祖・御法話集 八七頁

## ◆宗玄大徳

七恩の事 そもそも人には七恩あり。これを知るをもって人倫と申し、知らざる者は鬼畜・木石にも劣り候。

第一に『天地の恩』。人の胎内に宿るより生育することは、天地の恵みに非ざることなし。この恩を知らざる者は死して無明の闇に迷い、昼夜を弁えること能わず。

第二に『国土の恩』。人生まれて天地の恵みを蒙ることも、もし国王聖明ならざれば、父母も養うこと能わず。しかれば、その恩を知らざれば地獄に墮落して猛火の為に身を焼かるるの苦患あり。

第三には『父母の恩』。母胎十月の深恩はじめ、出生後父は終日外に出て世業の為に身を勞し、母は終夜養育の為に眠らず。この恩を知らざれば、畜生道に生を得、あるいは五体不具の者となる。

第四に『師の恩』。人成長すとも教え導く人なければ鬼畜に異ならず。この恩を知らざれば後身愚痴・無智の者と生まれて、ついに悪趣に墮落す。

第五『朋友の恩』。たとえ師ありて教え導くとも、良友の補けなくんば発達することを得ず。この恩を知らざる者は、慳貪・無慚の者と生まれて天罰を蒙る。

第六には『從類眷族の恩』。良友ありて過ちを正し、非を諫めて善導に導くとも、眷属の助力なくしては錢財尽きて長久を得ず。この恩を知らざれば後身人非人となりて、終に餓鬼道に墮落す。

第七に『衆生の恩』。身に良友眷属の助けありとも、衆生その能を愛し、才を賞せずんば、

後身孤独の者となり、刀剣の地獄に墮つる。

慎みても慎むべきは七恩にて候。なканずく我第二、第三の高恩を蒙ること須弥山もなお低く、滄海もなお浅し。

村上先生御法話集(二) 一三四頁

世尊は大恩まします

法華経信解品には『世尊は大恩まします。希有の事を以て、憐愍教化して、我等を利益したもう。無量億劫にも、誰か能く報ずる者あらん。手足をもつて供給し、頭

頂をもつて礼敬し、一切をもつて供養すとも、皆報ずること能わじ。若しは以て頂戴し、両肩に荷負して、恒沙劫に於て、心を尽くして恭敬し、又美膳・無量の宝衣、及び諸の臥具・種種の湯薬を以てし、牛頭栴檀、及び諸の珍宝、以て塔廟を起て、宝衣を地に布き、斯の如き等の事、以て供養すること、恒沙劫に於てすとも、亦報ずること能わじ』と申されてありますように、この鴻恩は到底、物質をもつてするとも、体でもつて成すとも報ずることはできぬのであります。しかし、ただ一つその報ずる道があります。それは、「如来の所遣として如来の事を行ずる」このただ一事であります。

村上先生御法話集(二) 一八七頁

### ◆御開山上人

四恩のこと 人間は、随分大勢の人から恩を受けているのであります。いろいろなお経に

ついでには教えられています。が、「心地観経」に四恩が明らかにされてあります。

一、父母の恩。二、一切衆生の恩。三、国王の恩。四、三宝の恩。

そして「此の四恩は一切衆生平等に荷負せり」と言っておりあります。親の恩を受けない者はありません。一切衆生の恩を受けない者も、国王の恩を受けない者もありません。

三宝の恩とは教えの恩です。教えの恩を受けない者もないのです。この四つの恩は誰でも受けているのだから、この恩に報いることに力を用いなければならぬのであります。

親の恩その一：母に与えられし教訓 私わたくしの七、八歳の頃ころでした。弟おとうとを連れて母ははの里さとに行こうとすると、母ははは申もうしました。「弟おとうとを連れて行いってもよいが、お前まえは兄あにだ。弟おとうとの面倒めんどうはどんなことでも見てやらねばならぬ。もし弟おとうとが鼻汁はなじるを出だしたらふいてやり、ご飯はんを食たべ残のこしたら食たべてやり、こぼしたら拾ひろってやりなさい。それが出来できれば連つれて行いってよろしい。それがいやなれば止めやめなさい」

母ははの里さとでは、可愛かわいがってくれるお祖父じいさん、お祖母ばあさんがいます。行いきたいので、「きつと弟おとうとの面倒めんどうを見みます」と申もうして、弟おとうとを連つれて行いきました。母ははに言いわれたことはチャンと守まもって行いないました。

こうしたことが、今いまの事業じぎょう、育児いくじについて関係かんけいがあるのかも知しれません。幼おさないい子こらの面倒めんどうを

見ることは何よりも楽しみです。その頃です、母は申しました。

「私らが安心して暮らせるのは三つの御恩のおかげです。第一は天子様の御恩。第二は神様。第三は仏様で、この方々は昼となく夜となく私らを守って下さるのです。朝はチャンとお日様の出なさる東に向かって拝みなさい。神社やお寺の前を通る時は、必ず私を護って下さることを感謝して、三度お題目を唱えて通りなさい」

これを聞いてからは必ず守って実行しました。こんなことが原因でしょうか、神様や仏様の教えを世の人々にもお話しする教化事業の一員となりましたことは、大いに意味があると思うのであります。

また、私の十八歳の頃であったかと思いますが、胃腸病のために苦しめられ、痩せ衰えても命も旦夕に迫ったと思う程のことがありました。本当に死を待つ身の淋しさは、また別です。その時です。町に出る時必ず前を通る神社がありますが、ある夜、「この神社の神だ」と言われた、金色の神様を見ました。その神様に「汝の命は旦夕に迫った。しかし、日頃神仏に感謝の礼拝をする功を以って寿命を延ばす。この後一層心を清くせよ。夢と違って疑うな」と、こういうことを聞かされてフト目を開きました。不思議にも、その翌日よりご飯も美味しくなりまして、遂に全治しました。そこで思ったことは、「母の教えで、薬の効もなかった病気を治して戴いたのだ。本当に夢の中で神様の言われたように、私は淨い心の者となって神仏の守護

を受けてゆきたい」ということでした。

こんな話は平凡なことのようではありますが、幼い時の母の教訓は、確かに一人一代の基礎となるであろうということ深く思い、深く信ずるのであります。それ故、子ども的人格を向上せしめ、人の模範たる日本人を養育するについて親たる者が、神仏の御恩に感謝するよう訓してゆくことは、大いに大切な問題ではなからうかと思ひ、完全な子育てを全うすることにご留意あらむようご一考願いたいと存ずる次第であります。

御開山上人御遺稿集 五三頁

## ◆日達上人

報恩のこころ 普通「報恩」ということを考えますと、私どもは、これまでの人生でお世話になった方々を思い浮かべ、その恩に対して報いてゆくこと、と考えます。

それもけっこうですが、個々の恩に報いてゆこうとする「報恩」は、誰かにお世話になったからお返しをするという一対一の恩返しで、それは「恩に報ずる」というより義理・人情に近い世界と言えます。

では、仏教に見た「報恩」はどのようなものでしょう。

それは、普通考えているよりも、もっと大きな世界と言えます。

一対一の恩返しを考えた場合、もし相手の人が亡くなって、いなくなったら、どうして恩返し

をしていいかわかりません。「報恩」ということを、一対一の義理・人情の面だけで見てゆくと、恩返しのできない場合が出てくるのです。本来の「報恩」は、私どもの受けている、根本的な恩に対して報じてゆこうとするところにあります。

では、根本的な恩とはどういうものなのでしょう。

人はみな仏さまの世界に生かしていただいております。仏さまの世界に生きている仏さまの子どもとおっしゃってくださいます。これは本当にありがたいことであります。

「知恩・報恩」の根本は、まず自分が今あるこの本当の姿を正しく見て、その恩に報じてゆこうとすることであり、また、仏さまの世界に生かして頂いている喜び、さらには、その世界で法華経を聞き得たという喜びに対して感謝を表わしてゆくのが、仏道の報恩であります。

ただ、それだけではあまりにばく然として意味がわかりにくいものですから、具体的に親の恩・師の恩・社会の恩といった、いろいろな恩が示されているのです。

**生きている喜びを知る** 「知恩」とは、恩を知るということですが、もし「自分が今ここに生きているのは自分の力」と思っていれば、まず、この思いはでてきません。

「生きているのはあたりまえ」「自分は健康で、自分の力で働いて金をもうけて生きている」と考えている人もいますが、本当の姿はそうではないはず。私どもこうして生きているの

は、実に不思議な因縁をいただいていると言えるのです。

人間は、一歳でも十歳でも二十歳でも、若いから死なないのではありません。本来、いつ死んでも不思議はないのです。それなのに今日もこうして生かしていただいているということは、本当に不思議で、ありがたいことです。その上に、すべての人を本当の幸せにする法華経にめぐり会えたことは、大いに喜ぶべきことであります。これ以上の喜びはないと言って、言い過ぎではないのです。

しかし、その喜びも、自分一人が喜んでいられるだけでは何の意味もありません。自分の得た喜びをどうやって行ないに現わし、人に伝えてゆくかが肝心なことであります。

その方法のひとつは「施し」をしてゆくことです。

仏さまの世界に生かしていただいて、正しい教え、法華経を聞く縁を得られた喜びを、人に教え、導き、自分にできることで社会のために尽くしてゆくのです。自分の日常生活の中で、役割や仕事を通して、たとえば、その人がいることによって少しでも楽しいとか「あなたのおかげで…」と言われるような行ないをしてゆくことです。言葉で、笑顔で、心で、行ないで、とにかく、相手の喜ぶようなことをしてゆくことです。それが、生かしていただいている喜び、法を聞き得た喜びに対する「報恩」であります。

『月刊法音』第二一九号 九頁

# といののはの記

## ご先祖さまへのご恩返し

「お父さんとお母さんで2人。おじいさん・おばあさんは4人。10世代さかのぼるとご先祖さまは何人になるかしら？」

「2を10回掛け算するとわかるのかな？」

「うん。1024人だ！」

「では、20世代さかのぼると？」

「2を20回掛けると…すごい！100万人を超えるんだね！」



「そうだね。その中の誰かひとり欠けても私たちはこの世に生まれていないことになるんだよ」

「僕たちが生まれたのは、数えきれないほど多くのご先祖さまたちが命をつないでくれたお陰なんだね」

日蓮聖人の御遺文に、こんなお言葉があります。

夫れそ老狐ろうこは塚つかを後あとにせず、白亀びやくきは毛寶もうほうが恩おんを報ほうず、  
畜生ちくじやうすら斯かくの如ごとし、況いはんや人倫じんりんをやや 『報恩鈔』

「老狐は塚を後にせず」とは、狐は決して生まれ育った巣を忘れず、老いて死ぬ時も巣に足を向けることはないという、つまり狐のような動物であっても恩を忘れないという譬えです。

「白亀」は白い亀のことで、「毛寶」は中国・晋代の人

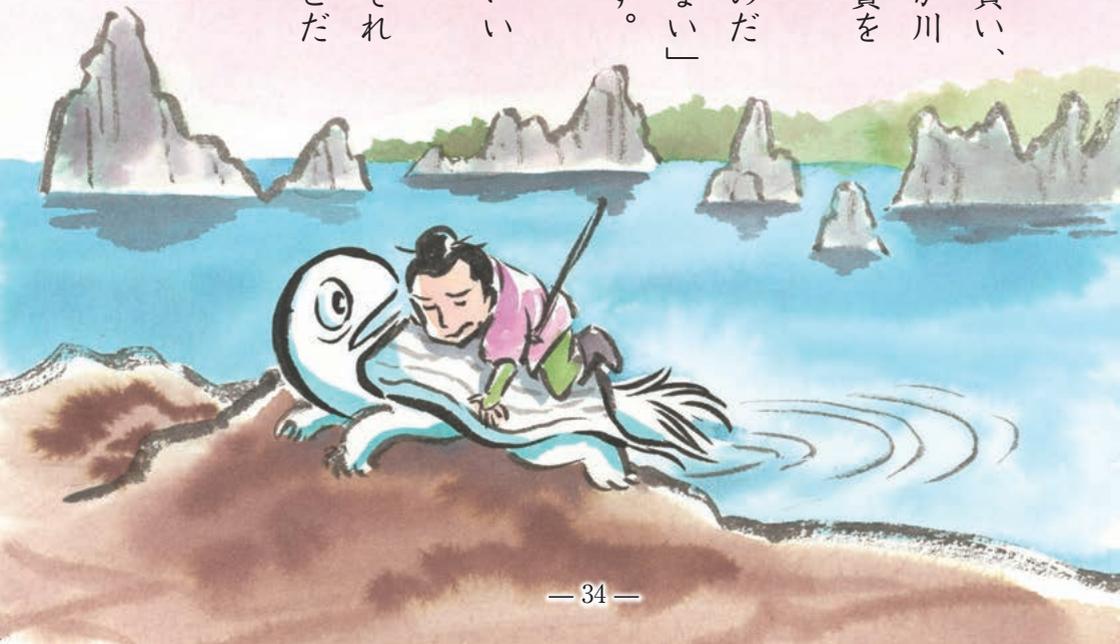


物です。毛寶が幼い頃、市場で売られていた白亀を買い、川に放してやったところ、20年後、戦に敗れた毛寶が川に身を投じた時、かつての白亀が水中から現れ、毛寶を背に乗せて命を救い、恩返しをしたという故事です。

日蓮聖人は「狐や亀でさえ恩を忘れることはないのだから、私たち人間が恩を忘れることがあってはならない」と、感謝の心の大切さを教えてくださっているのです。

「ご先祖さまにはどうやって感謝の気持ちを表せばいいの？」

「お題目を唱えて、ご供養することも大切だけど、それだけではなく、お上人さまは三徳の実行を続けることだとおっしゃっていたよ」



「先祖の方々は、今生きている私たちが楽しく暮らしている」と喜ばれます。そのためには六波羅蜜を実行し、三徳の行いを続けることです。〆今日一日〆簡単なことでも続けることです」（山首上人述）

親おやの言いう事ことに一分ぶんも違たがえず、親おやによき物ものを与あたえんと思おもいて、せめてやる事ことなくば一日いちにちに二三度ど笑えみて向むかえとなり〆 『上野殿御消息』

「これからは、毎日2〜3回は優しい笑顔を中心掛けよう  
っと」

「家族みんながニコニコしているのがご先祖さまへの恩返しということだね」



# 読者の声

## 元同僚の妹さんと御符

原 美智子（東京支院）

平成27年7月の初め、知人のAさんより「妹の顎が腫れてこれから検査なの。どうしよう」とメールが入りました。その日の検査では良性の舌下腺との診断でしたが、その後、再検査を受けたところ、顎の腫れがひどく、即入院となりました。

その話を聞いた私は、Aさんのご家族や私の妹たちと「今、できることから始めよう」と話し合いました。まず、Aさんが猪原上人に相談に行き、ご指導をいただく。全員で写経・写仏・髭題目、そして自我偈とお題目を唱えることなどをお誓いしました。

お上人にご教示いただいたことは、全員で即実行をしようと思いました。通勤の途中に声を出して、自我偈やお題目。お寺の信者さんたちからたくさん御符を戴き、妹さん宅に届けました。

7月末に病名が判明。日本では発症割合が3%のバークिटリンパ腫ということでした。進行が早いので、すぐに強めの抗がん治療が始まりました。期間は1年間です。

つらく厳しい治療が続きますが、お寺から戴いた御符を片時も手離しませんでした。一時、副作用がひどかった時に、お上人に病状をお伝えすると「副作用が出たというのは、きっと薬が効いているということでしょう」とおっしゃいました。すぐAさんに報告。後日、Aさんと2人で御符を

持って、お見舞いに行きました。面会室で、念珠が他の人の目に入らないように、そっと体を撫でさせていただきました。

Aさんと私は、30数年前に同じ会社に勤めていました。当時、土曜日は3時まで仕事をしていましたが、ある日帰る間に話しかけ、お寺に誘ったのがきっかけでした。それ以来、毎回土曜日の講日には一緒に参詣をしています。

Aさんのお母さまが腎臓ガンになった時、猪原法尼のご指導で、手術をされ、転移もなく今もご健在です。お父さまは、法尼が枕経を上げ、安らかに旅立たれました。何も疑問を持たず、法音寺のみ教えにご縁ができて、ご先祖さまも喜んでおられると思います。

妹さんは1月29日に退院され、その後は通院して放射線の治療を続け、5月に再検査の予定です。お上人、お庫裡さまにはご多忙にもかかわらず、ご指導をいただきありがとうございます。法友の皆さまにも心から感謝しています。まだ妹さんは治療中ですが、御符を戴きながら頑張っています。Aさんご家族、私の妹たちもお互いに助け合い、法音寺のみ教えを実行して、前進していきたいと思っています。

いかならむ病もゆる葉ぞと

尊きみのりのこしたまいぬ

《御開山上人御詠》



## 自ら法華経・法音寺三徳を實行し、その喜びを伝えます

青い空、さわやかな風の吹く5月3日から5日の3日間、平成29年の浄心道場が、法音寺において開かれました。全国の支院から、男性27名、女性19名、合わせて46名が入行され、遠方の支院から入行される方は、前日2日から山堂に宿泊。久しぶりに会う仲間と、しばし歓談の時間は、道場が始まる前の楽しみとなっています。

3日午前8時50分から、本堂での開

会式。山首上人さまがご挨拶で述べられた「自ら求めて積極的にするのが上品の修行です」を心に刻んで、3日間の精進が始まりました。道場生の中には、怪我や病気によって、正座がむずかしい方もおられますが、法音寺三徳の教えを、縁ある人に伝えたいという強い願いを抱いての入行です。

プログラムには、休憩の時間が設けてありますが、それは場所を移動する

ための時間であり、移動の必要のない時は、自我偈を繰り返し読み続けることが求められています。文字通り、休む暇もない修行の3日間です。

### 【山首上人さまご講演・要旨】

ものの見方と堪忍についてお話しいたします。

新渡戸稲造先生は、善意で物事を見ることの大切さと、それが人生に及ぼす影響と効果を教えておられます。先生は、35歳の時に大病され、人生を悲観されました。しかし、「人生の半ばとなって、一休み。病気も修養の種」と考えるに至って、心は愉快となり、1年半で全快されました。

先生はクリスチャンで、「聖書に40カ所、『チアフル（愉快）であれ（to be good cheer）』という言葉が出てくる。常に辛く苦しい局面で使われる。

不愉快な時に愉快を装うことは、容易なことではない。このことは、実行しようとして初めてわかることである」というようにおっしゃっています。

3人の方の例を紹介します。

林文字さん。車の販売会社のセールスレディから社長となり、現在、横浜市長です。支店長を拝命して配属された支店の営業成績は全支店中最下位でした。周りの人々は、「左遷された」と言っていました。

それでも「これ以上、悪くならない」と社員に対する見方を変えて、徹底した「ほめる」指導によって、半年でトップの成績になりました。社長となって、全支店長の反発の中、「ほめること」で4年連続売上倍増を実現されました。良い面を見つけて、ほめ続けられた成果です。

村木厚子さん。厚生労働省で4人目

の女性局長となりましたが、その時期に公文書偽造の罪で5カ月間、拘留所に拘留されました（後に冤罪であることが証明され、無罪となりました）。

友人からの手紙が読めない。ありがたいと言えない。などの苦しさを味わわれました。そんな時、友人から差し入れられた、人のためにやさしいことをすると花が咲く『花さき山』という絵本を読んで、人のやさしさに気づき、「元気で」「大丈夫です」「心配ないです」と短文ながらも手紙が書けるようになりました。

心の大転換が起こったのです。空元気でもいい、心を元気にすると、「拘留所内では食事を作ること、洗濯も掃除もしなくてもいい。ありがたい」と思え、拘留中150冊の本を読まれました。

ドイツの哲学者、カント。生来病弱で、家が貧しかったため、17歳の時に初めて医師の診断を受けましたが、その医師に言われました。「あなたの病気は、医学では治らない。体が病んで

いても、心が病んでいないことに感謝して、生きていけ。つらい。苦しい。と言わないように。言えば、親や兄弟は、もっと苦しむ」と。それ以来、言わないように心掛け、元気になるとともに、「長く生きられないかもしれない」と。時間を無駄にしてはいけない」と勉学に励まれ、大学の教授となり、総長にまでなりました。

不愉快を表す極みが「怒り」ですが、アメリカの精神科医、ハワード・カトラーは、「怒り・憎悪・敵意は、心臓・血管組織に悪い影響を及ぼし、病気の原因となり、短命の原因でもある。内にある怒りの影響は小さいが、外に表すと、制御ができなくなるとともに、増幅される」と言っています。

新渡戸稲造先生は、「怒りは、他人にわかってほしいという自分の思いのため、人に移しやすいものである。怒りは言葉に表したり、顔に出してはいけない」と言われ、ご自身は怒りを抑えるために次の方法を実行されました。まず、毎朝、「今日は断じて怒るま

い」と誓うこと。これは、怒りを抑制する予防薬となります。イギリスのことうざに「1オンスの予防薬は、1ポンドの治療薬に値する」とあります（1ポンドは、1オンスの16倍の重さ）。

就寝前に、今日一日の自己を省みて、どんな怒りを表したかを日記として記録する。そうすると、怒る前に「自分が怒るのは、『ここだな』ということがわかるようになるということです。激しく怒る人には、神仏に祈りを捧げて、助けてもらおうという方法も示しておられます。怒ることが良くないことを自覚し、怒るまいと決心することが肝心、ということです。また、「不幸や艱難をことごとくひとまとめにし、はなやかなる風呂敷に包み、世間にはみごとな、目ざめるごときうるわしい風呂敷だなど見せ、喜ばせながら、その内にある重荷を一人で軽げに担うということは、よほど偉い人でなければできないことである。私は人のニコニコしているのを見て、その偉大さを思わざるを得ない」とおっしゃっています。

す。  
堪忍していることを、周りの人に見せない堪忍をめざしましょう。

### 【信教師体験談】

◇山本悦久信教師（高知布教所）

写経によって功德をいただいたこと  
をお話し申し上げます。

我が家には、男の孫が2人おります。



開山堂から本堂へ

上の子は、希望通り高校の普通科に通っています。今年、下の子の受験を迎えました。将来は建物の設計の仕事がしたいという希望があり、高校の普通科を出て、専門学校か大学に進もうと考えていました。ところが、受験した高校に合格できませんでした。二次募集のある実業高校を受験しましたが、合格発表まで孫は不安な様子でしたが、私達夫婦も徳を積ませていただきましたが、孫自身も真剣に写経をしておりました。

私の妻が孫に、「自分で貯めたお小遣いを使って、一生懸命写経をしたでしょう。仏さまにお任せしよう」と話しているのを見て、うれしく思いました。そして、無事合格いたしました。「普通科に落ちて良かった。今の学校がうれしい」と、毎日喜んで通学しております。写経の功德を如実に見せていただいて、私も孫に負けられないように精進してまいります。

◇安藤正一信教師（明川支院）

お神通かけについてお話し申します。

とは言いましても、自分がかけた経験ではなく、かけていただいた経験です。成人して、就職したのですが、ノイローゼになりました。そんな時、祖父の代からお世話になっている法音寺の信者さんに相談いたしました。

「医者では治らない。お徳をいただくしかない」とおっしゃり、お神通をかけてくださいました。その後も、相談に伺っては、お神通をかけていただき、法華経・法音寺三徳による世渡りの方法を教えていただきました。

今、私は毎日、お題目も自然に唱えられ、仕事が楽しく、良い人生でありたいという思いで生活しております。信教師にしていたら30年。御恩に報いるためにも、信教師としての役割を果たすためにも、これからは、お神通かけを通して、今の自分と同じように、御法によって喜びの生活をする人を作っていくよう努めてまいります。

5回生は、初日、2日目に指導を受けた、体験を語る実習「布教研究」の

成果発表として、指導講師・2～5回生全員に向けて、「体験発表」を行いました。1人終わるごとに、指導担当による講評があり、最も緊張する時間となりました。

【教務委員長 島田行学上人講評】

皆さんそれぞれに法音寺三徳が生かされているすばらしい体験の発表でございました。

御法はまず、家庭で実行して、喜びの経験を積み重ね、それを基に周りの方々に伝えていくことが、信教師である皆さんの使命であります。

周りの方々のお世話をさせていただくことによって、体験が増え、それは自分の引き出しの中に納まっていきます。引き出しが増えることは、体験談に活かされ、教化の力となっていくと思います。今後益々のご精進をお願いいたします。

今年の道場で、信教師・準教師の寺令を戴かれた方々です。(敬称略)。

〔新信教師〕(6名)

峯 みどり(明川支院)  
近藤 行男(大阪支院)  
安名 伸一(大阪支院)  
山口 直喜(大阪支院)  
岩田 精子(福岡支院)  
林田 弘子(福岡支院)  
〔新準教師〕(12名)  
橋本 謙治(静岡支院)  
加藤 英一(名古屋地区)  
小栗 明美(岐阜支院)  
前沢 宏和(上野支院)  
澤口 良則(大阪支院)  
山田 夕起子(大阪支院)  
池内 真由美(大阪支院)  
山本 克彦(神戸支院)  
川崎 章弘(淡路支院)  
久家 恵美(福岡支院)  
大庭 吉敏(福岡支院)  
大庭 正順(福岡支院)

開会式・朝夕の勤行・閉会式、6回の勤行で毎回拝読した日蓮聖人のご遺文「諸法実相鈔」の一文に、「我もい

たし、人をも教化候え」とあります。3日間の修行を終え、白衣を脱いで普段の生活に戻る道場生の心には、等しく自ら法華経・法音寺三徳を実行し、その喜びを伝えることが誓われています。(教務委員会 大庭圓昭)

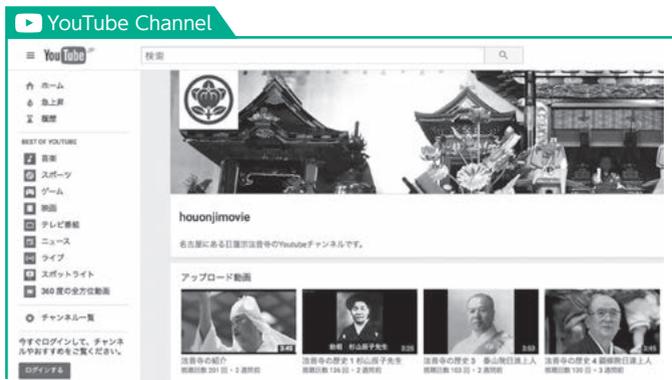


# YouTubeに 法音寺チャンネルができました。

<https://www.youtube.com/user/houonjimovie>

ホームページから、またはYouTubeサイトで

右のQRコードからもアクセスできます ▶▶▶



法音寺の紹介や歴史、活動記録を  
ご覧になれます。

## 法音寺公式 facebook で『一日一言』配信中!!

<https://www.facebook.com/法音寺-1746501028898172/>



### Facebookのアカウントをお持ちでない場合

1. [www.facebook.com](http://www.facebook.com) を開きます。
2. 登録フォームが表示された場合は、名前、メールアドレスまたは携帯電話番号、パスワード、生年月日、性別を入力します。フォームが表示されない場合は、〔登録する〕をクリックし、フォームに入力します。
3. 〔登録する〕をクリックします。
4. アカウントの作成を完了するには、メールアドレスまたは携帯電話番号を確認する必要があります。

# 日蓮宗 大乘山 法音寺の ホームページが 新しくなりました！

<http://www.houonji.com/>

スマートフォン・タブレット端末対応！

右のQRコードからもアクセスできます ▶▶▶



※リニューアルに伴うURLの変更や廃止により、一部のページが見られなくなったり、リンク切れが発生することがあります。  
この場合は、サイトマップページで該当の情報をお探しいただくか、サイト内のキーワード検索をお試しください。

# 福祉の ひろば

## 少子・高齢社会の中の日本の福祉

### 「ニコニコ子育てく保育の現場から」

保育園は、0歳児から就学前の6歳児までのお子さん、仕事や介護、病気等の理由から子育てがむずかしくなっている保護者に代わり、一時的にお子さんをお預かりする社会福祉施設の一つです。

保育園を利用される保護者の方や地域の方々から、日々さまざまな育児の悩みや相談が寄せられます。ゆっくりとお話を伺い、ひと通り話し終えたら「これまで話す相手がいなくて、誰にも相談できなかった」と涙を流される方や、一転して晴れやかな表情に変わり「安心しました」と笑顔になる方が多くおられます。共通して言えるのは、子どもを大切

に思うからこそ悩みが尽きないということです。

子育てに不安や悩みはつきものです。子どもの成長とともに悩みの種も変わります。なかなか解消できずに、不安や焦りを感じても、相談する相手がいないと、自分だけで抱え込むことになります。その結果、育児に自信を無くし、鬱になってしまうというケースが最近は多く見られます。

その原因の一つがインターネットによる情報過多にあると言われています。インターネットで検索するとたくさん情報があふれています。その中で本当に必要な情報を得られず、翻弄されてしまうことがあるようです。また、少子高齢化・核家族化などの社会背景も子育てを困難にしているようです。

現代の保護者の世代は、兄弟の少ない家庭で育ち、大人になるまで子どもとの関わりの経験が乏しいため、子どもとの関わり方がわからなくなってきたりするようですが、育児に不安を持つ皆さんに発達の見通しや、子育てに大切なことを伝えることで、楽しく子育てをしていただけるのではないかと考えています。

乳幼児期の育ちに大切なことを少し述べさせていただきます。

〃乳幼児期は子どもたちが成長し、自分で人生を切り拓いていくために必要な「生きる力」を育てる大切な時期だ〃と言われます。保育園ではよく乳幼児期の育ちについて、〃高層ビル〃にたとえて話します。一見すればモダンで洒落た作りの高層ビルでも、土台となる基礎工事が手抜き工事であれば、予期せぬ災害が起きた時に簡単に崩壊してしまいます。しかし、〃基礎に問題があるから〃と、一度出来上がったビルを取り壊して作り直すのは、簡単ではありません。乳幼児期は、〃土台となる基礎作りの時期〃で

すが、最近はそのような目に見えにくい成長の基礎作りを丁寧に重ねていくことよりも、乳幼児期からの早期教育が重要視され、先に頭を育てようとし、心を育てることが後回しになってきているように感じます。

昔は親戚や地域の中で子どもがたくさんいて、子どもたちの社会がありました。その中で人間関係を結び、ケガをしながらも、危険回避力を身につけました。また、遊びを通して、心も体もたくましく成長しました。時代が変わり、子どもたちは成長を急がされているように思います。本当に大切なことは、早期からの教育ではなく、家庭の中で、お母さんやお父さんとのふれあいの中で、〃自分は愛され、守られている〃という自己肯定感を育てることであると思います。

子育ての時間はあっという間に過ぎていきます。まずは、子どもが子どもでいられるかけがえない時間を、親子で存分に楽しみましょう。ニコニコ子育て、笑顔で楽しい子育てを。

(T・T)

# 福祉に 生きる



社会福祉法人 昭徳会

児童養護  
施設

名古屋養育院の実践

『日本の福祉を築いたお坊さん』に学ぶ。

鈴木修学先生が築き上げた福祉の

新たな未来を切り開くために…

今も昔も変わらぬ指導姿勢に共感しました

名古屋養育院 保育士 吉本 真衣

この本を読んで、福祉の歴史や児童養護施設の歴史などを知ることができました。本を読んで印象に残っているところは四つあります。

まず一つ目は、駒方寮設立の場面です。戦前であるにもかかわらず小舎制で家庭的な雰囲気づくりを修学先生は目指しており、現代の児童養護施設に求められているものと同じことに驚きました。昔の児童養護施設は大舎制で家庭的ではなく、集団で生活をしていると思っていたからです。戦前であっても現代であっても児童養護施設に求められているものは、家庭的な支援なのだと感じました。

二つ目は、施設でのルールが書かれている場面です。「叱ることを避け、子どもの良いところを早く見つけてほめる。叱る前にほめ、ほめた後で教える。この順番を忘れないこと」という文章には強く共感できました。私が目指していることと同じであり、昔も今も何も変わらないと感じました。

悪いところやダメなところを見つけるより、良いところを見つける方がむずかしいものですが、私は今後、子どもをほめて伸ばすことができるようにしていきたいです。やはり現場では叱ってしまいそうになる場面によく遭遇しますが、修学先生が当時定めたルールのように「叱る前にほめ、ほめた後で教える」ということを忘れずに仕事をしていきたいと思いました。小さなことでも、子どもをほめてあげられる職員になりたいです。

三つ目は、自治会作りや向上箱作り、誕生日会の開催などを行い、子どもと心のつながりを深めていった場面です。自治会は私が働いている施設でも取り入れられており、子どもの意見を聞く良い機会です。誕生日会

も行われており、子どもにとって年に一度の特別な日をお祝いしてあげられていると思います。しかし向上箱というものはなく、取り入れることでほめることを増やせるのではないかと思います。〃ほめて伸ばす〃ための一つの手段として、向上箱のようなものがあった方が良いのではないかと思います。

四つ目は、音楽を教えることで子どもたちが平穏な心を取り戻していった場面です。私は幼いころから音楽に関わっており、中学・高校では吹奏楽部でした。練習はととても大変でしたが、本番が終わった後の感動、そして演奏の楽しさを知っているからこそ、印象に残りました。

音楽は楽しさをたくさん味わうことができます。子どもたちにも音楽を通して何か伝えられたら良いと思います。

今回この本を読んで、戦前でも現代でも児童養護施設に求められることは同じであり、昔から私たち職員が児童養護施設の子どもたちに与えたいと思うものは変わらないのだと感じました。

## 本当の支援について考えさせられました

名古屋養育院 栄養士 山村 千代美

四月の初任者研修の時にこの本を戴き、鈴木修学先生の福祉サービスの実践と福祉教育に生涯を捧げられた業績を知ることができました。

修学先生は生まれながらに積極的で明るい性格と誠実で勤勉な気質を兼ね備えており、行く先々で信用を得、失敗してもくじけることなく前向きに仕事に励み新しい発想を生み出す方でした。仕事だけではなく、ご自分の趣味にも力を入れ、向上されるところには心の豊かさを感じました。

修学先生が叔父さんの紹介で杉山辰子先生と出会い、法華経を説かれ、因果の二法を知り、功德を積むことが何より大切であることを学ばれて実践されたことにも、修学先生の実直的な人柄をうかがい知ることができました。

修学先生の人生で私が一番印象深かったところは、生の松原のハンセン病療養所での生活でした。結婚さ

れたばかりの若いお二人が、当時は発覚すると強制的に隔離されるような病である「ハンセン病」の人々のお世話をしながら生活するなんて、想像しただけで私では一日もできないことだと思いました。当時の隔離とは、人里を離れ、住まいも小屋で、家族とも縁を切られる方がほとんどだったと聞いたことがあります。

そのような病にかかった人々が生活を少しでも豊かに感じられるように、にこやかな顔でその人の立場に立った支援をされた修学先生。誰もが先生の近くにいたいと思つたに違いありません。若いお二人が杉山先生と法華経を信じて日々奮闘されたことは、想像するだけでも辛いものだったと思います。換金できる物は換え、療養所の人々の生活を守り、少しでも心豊かになれるように、昭和天皇の即位礼が行われた年の「博多どんたく」へござっぱりとした服装の患者さんたちとともに意気揚々と見物に出かけたことなど、本当の支援とは何かと今一度考えさせられました。

その後お二人は名古屋に帰られることになりました。お世話になった方々への挨拶回りの際に「上がって

きませんか」と言葉をかけていただくのですが、マン  
トの下は汚れきったゆかた一枚だったため、そのお誘  
いを受けなかったそうです。修学先生の挫折感と、最  
後のプライドを感じる場面だったと思います。

生の松原では結果的には挫折されたお二人でしたが、  
貴重な三つの教訓を学ばれたことで、この地に幸せの  
種をまき、今の私たちの指針があることがよくわかり  
ました。私も人々の本当の幸せを願って支援していき  
たいと改めて感じました。

### 修学先生のように笑顔で接するようにします

名古屋養育院 調理員 山川 未紀

この本を読んで、私は色々と考えることができまし  
た。この鈴木修学先生の考えや行いは共感できても、  
なかなかそれを実行していくことはむずかしいと思  
います。

まず一つ目は、人がうらやむ世間的な成功や、せい  
たくな暮らしを捨てることはなかなかできることでは  
ない

なく、驚きました。私だったらわざわざ苦勞するとわ  
かっているところに飛び込んでいくことはできないで  
しょう。もし仮に飛び込んだとしても、すぐに後悔し  
て文句ばかり言っていると思います。寝たきりの老人  
やハンセン病の患者さんを治ると信じ、根気よくお世  
話をすることは、口で言うのは簡単ですが、並大抵の  
ことではないと思います。

二つ目は相手のことを深く考える姿勢に感動しまし  
た。奥さんのみつ夫人も、ハンセン病の患者さんのお  
世話をしている時に嫌な顔もせず洗い物をしたり、  
夫が宝物を売るときには自分の宝物も売るなどなか  
なかに構わない」というセリフはなかなか言えません。  
みつさんも修学先生と同じ気持ちでいられるぐらい、  
先生のことを愛していたんだなと思いました。現代で  
はこんなにも夫についていく奥さんは、なかなかいな  
いと思います。それだけ修学先生は人として、夫とし  
てすばらしい人だったのでしょう。そして奥さんのこ  
とも大切にしていたのだとも思います。

三つ目は、「子どもはほめて育てる」ということです。これは私の考え方と同じです。どんな子どもでも、ほめられればうれしいです。大人でもほめられればうれしくてがんばろうと思うのですから、子どもならいっそうのことだと思います。私は自分の子を育てる時、基本的に子どもを叱ることはしませんでした。もちろん悪いことをした時は叱りましたが、あまり悪いことをする子にはなりませんでした。泣いてぐずっていても、動きが遅くて急がせたい時も、大きな声を出さずことはせず、本人の気のすむようにつきあい、ほめてあげると、だんだんきちんとしてくれるようになりました。怒っても子どもは萎縮するか反発するだけだと私は思っています。

正直、私は修学先生のように生きていくこと、考えることはできません。けれど少しだけ真似することはできるかなと思いました。最初は物真似かもしれないけれど、続けていけば少しは本物になるかもしれません。むずかしいことを考えるのは苦手ですが、笑顔で接することぐらいはできるような気がします。小

さなこともかもしれないけれど、少しずつ積み重ねていけば大きなものになると思うので、毎日を大切に、少しの優しさをもって生活していこうと思いました。

## 修学先生は仏さまのようだと思います

名古屋養育院 調理員 堀田 真子

人との出会いはさまざまなので、誰もが沢山の人の出会い、自分と同じ考え方をしているうれしく思ったり、全く違う考え方をしている悲しくなったりします。鈴木修学先生は杉山辰子先生に出会わなければ、違う人生を歩まれたと思います。その杉山辰子先生との出会いによって自分のやらなければならぬことに気づき、新たな道を選ばれたのはすごいことだと思います。

苦しんでいる子どもたちや世の人々に「慈悲・至誠・堪忍」の心をもって常に優しく接することができる人は、悲しいけれど今の時代にはほんのわずかの人がいないように思います。

自分の努力する姿が皆の教えになると考えて、人々の幸せだけを願ひ、体もボロボロになりながらも、いつもにこやかに人に接する修学先生の姿は、人でありながら仏さまのようだと思います。

私も心の中に修学先生のような温かい心を持って、優しい心で人に接し、困っている人がいれば私の得意なことでも助けていきたいと思っています。

## 修学先生の精神と誇りをもって仕事します

名古屋養育院 児童指導員 正入木 ひかり

「ほめて育てる」指導を大切にしていた修学先生。私は働く上で、悪いことを指摘することよりも、「ほめること」を大切に思っていた。しかし、まだ働き出して少ししか経っていないのに、そのことを忘れかけていた気がする。子どもと関わっていると、わざと困らせて気を引こうとする試し行動に悩まされ、悪いところが目がいくことが多くなってしまう。また子どもが一度何か悪いことをすると、また同じことをするので

はないかという思いで子どもを見ることもある。疑いの目をもって見ないと、少しの変化にも気づくことができないと先輩職員から教わったが、悪いところばかりに目を向けてしまっていたのではないかと思う。修学先生は育兒院で働く職員に対して「あの子はだめだ。今日もああいう悪さをした、ということよりも、今日良かったことだけを探してほめてあげる。良いことがなければ、何か仕事をさせてほめてあげてほしい。それが一番良い指導法だ」とおっしゃっていた。また、一つのことを教えようと思ったら、五つくらいほめてあげることが必要だとしており、「ほめること」をとっても大切に行っている方だった。良いところを探してほめるのは簡単に思えるが、実際子どもと関わっているとむずかしいことのようにも感じる。悪いところばかりに目を向けず、良いところに目を向け、修学先生のように「ほめること」を大切にしてこれから子どもたちと関わっていききたいと感じた。

修学先生は、自分を犠牲にしてまでも人のために働いていた。杉山先生の教えである「不幸な人々に、自

分のできることを精一杯尽くす」ことを実践されており、一生懸命人のために力を注いでいたからこそ、周りの人が支えてくれたのだと思う。良い人だからという理由だけでは、周りの人の心を掴むことはできないのではないか。周りの助けだけに頼らずに、自ら率先して動いたからこそ、信用を得ることができたのだと感じた。修学先生のように、子どもに対して求めるのではなく、掃除や洗濯など日頃の行いの中で一生懸命働く姿を見せることも大切なことであると感じた。だからこれからは率先して働くようにしていきたいと思う。

修学先生が築き上げた日本福祉大学を私は卒業したが、どのように大学が建てられ、どのような思いが詰まっているのかを知ることができ、改めてすばらしい大学で学ぶことができているのだと思った。そして日本福祉大学と創設者が同じ、昭徳会という長い歴史を持つ法人で働けるのは、とてもすごいことであり、誇りを持ってこれから働いていきたいと感じた。「慈悲・至誠・堪忍」も忘れずに人生の指針としていきたい。

## 人生を充実させる価値観にふれました

名古屋養育院 児童指導員 加藤 菜摘

私は無宗教である。仏教やキリスト教などさまざまな宗教を学問として興味を持ち関連書籍を読むことはあっても、特定の宗教を自分の行動の規範や、心の拠り所とすることはしない。神通力や功德、仏教的な考えも特に信じておらず、むしろ若干の不信感を抱いているような人間である。この本を読み始めたころ、杉山辰子先生の法華経で救われるという考え方にも若干の嫌悪感を抱いていた。それで救われるのなら、なんて楽な世界なのかと。しかしこの本を読み進めていくと、宗教や仏教とは関係なく、人としてすると良いことの大切さが伝わってきた。仏教や法華経を信じていようがいまいが、杉山先生や修学先生の成そうとしたことの偉大さに大変心を動かされた。

「慈悲・至誠・堪忍」の三つの言葉が非常に強く印象に残っている。これらの言葉はむずかしくわかりにくいですが、ほとんどの人が幼いころから道徳的観念として

親や大人から言われていることだと思う。

「人に優しく、誰かを思いやる心を大切に、人を恨まない」

誰もがそれが大切であると心のどこかではわかっているが、だからといってそれを実践できるかというところとむずかしいと思う。他人と関わりとついつい怒ってしまい、根に持ってしまう。自分の利益を優先して動いてしまうことも多い。そのため「慈悲・至誠・堪忍」を実践して得られる感情を体験できることが少ない。しかし杉山先生や修学先生はそれを実行しており、その結果、大切な体験をたくさんされている。他人にした良いことが巡り巡って自分の心や生活の充実につながっていく、そのとても良い実践例だと思った。

藤森の育児院の話の中で、修学先生がおっしゃった「人はほめられると良い子になる。悪いところではなく良いところを探すべきである」という考え方は私にとって現在、非常に足りていないと感じるものである。名古屋養育院で働き始めてまだ間もないが、子どもたちと接しているとなつてい怒りたくなる場面が多い。それ

は「その子に良くなつてもらいたい」という思いからではあるが、それでは子どもに伝わりにくいのだと思つた。大人を信用していない子どもは、怒って叱るばかりの大人を遠ざけてしまう。しかしほめられると、大人でもそうだがうれしく感じて話しかけやすくなり、相談しやすくなり、それが心を開いてくれるきっかけとなるのだと思う。

修学先生には伝えたいことや実践したいことがあり、それを他の人々に広めようとするために宗教という形をとっているのだと感じた。仏教に縁がない人や興味のない人にも、人生や価値観をより充実させるためにこの本をぜひすすめてほしいと思った。

## 他者の幸せを願える職員になります

名古屋養育院 保育士 宮本 妙

「あなたは、自分の正体がわかっていますか?」「あなたには、あなたでなければできない大切な役割があります」 「私の役割とは何でしょう。私は人生の意味

を求めています。どうしたら幸せになれるのか、日々考えています」

始まりの9ページ目から惹きつけられました。「自分の正体を知り、大切な役割が自分にもあると気づける日は来るのか」と本の始まりから悩んでしまいました。これは杉山辰子先生のお言葉です。杉山辰子先生こそ、鈴木修学先生の師でした。

当時、人々から恐れられ、強い感染力を有する病気と考えられていたハンセン病。その病の詳しい実態は解明されていませんでした。ハンセン病の患者さんは世間の偏見と差別を受け、それを恐れた家族からすら縁を切られていました。にもかかわらず修学先生は、ハンセン病患者さんが暮らす建物を修理し、身の回りのお世話、治療をしました。療養所での資金は、修学先生や奥さまの着物を質に入れるなどして工面していました。〆ハンセン病の患者さんも同じ人間なのだから〆という他者に対する思いやりを打たれました。〆好きで病気になるたわけではない〆とはあたりまえのことですが、それを行動に移し、周りを巻き込むこ

とのできる修学先生を尊敬します。

杉山辰子先生は、亡くなる前に「明日死んでも後悔はない、というまで徳を積みなさい」と語られました。今自分の生きてきていることを考えると、こうしたいと考えても、考えだけで終わっていることが少なくありません。徳を積むことが全然できていないと実感しています。人を助け、人々を幸せに導くことは簡単なことではありませんが、少しでも力となるような人間になりたいと強く思います。

杉山辰子先生は、法華経の教えを「慈悲・至誠・堪忍」という三徳にまとめて人々に諭しました。その中でも一つ、心に置きたいことがあります。それは「堪忍」です。腹を立てず、恨みや怒りを捨て去り、理不尽な出来事からも逃げ出さず、他人を許す広い心は、生きていく上で必要不可欠なものだと思います。人は迷惑をかけ合って生きています。しかし、その中に許し合い、「堪忍」があるからこそ、みんな「人に親切にしよう」というのだと思っています。

そして一番共感したのは、「ほめて育てる」という

考えです。良かったことを探し、ほめる。それが一番良い指導法だと修学先生は言われます。子どもの一日の生活を温かく、そしてしっかりと見守る姿勢を身につけるためにも、良かったことを探し、さまざまな部分に目を配ることができるようになりたいと思います。昭徳会の基本方針を胸に、思いやりを持ち、他者を尊重し、大切にまごころを込めて接すること。他者の幸せを願えるような職員になりたいです。



.....  
● 児童養護施設 名古屋養育院

- 愛知県名古屋市南区呼続4-26-37
- 入所定員53名
- 職員 正職員30名、パート職員8名

● 保育士（児童福祉分野） 児童福祉施設において、児童の保育を行う者。保育士の資格が必要。

● 栄養士 献立表の作成や食事の評価など給食管理、入所児の栄養管理や栄養指導、衛生管理を担当。

● 調理員 入所者の給食の調理を担当。

● 児童指導員（児童福祉分野） 児童福祉施設において、児童の生活指導を行う。次の任用資格が必要。① 地方厚生局長の指定する児童福祉施設の職員を養成する学校その他の養成施設を卒業した者。② 大学の学部で、心理学、教育学又は社会学を修め、学士と称することを得る者。③ 小学校、中学校、高等学校の教諭の資格を有する者。④ 高等学校を卒業した者であって、2年以上児童福祉事業に従事した者。⑤ 3年以上児童福祉事業に従事した者であって厚生労働大臣または都道府県知事が適当と認定した者。具体的な進路としては、4年制の福祉系大学を卒業するか、大学で、心理学、教育学、社会学を専攻し、児童指導員任用資格を取得することが一般的。  
.....

※本稿は平成28年9月にいただきました。（掲載順不同）  
※山川未紀さんは、平成28年9月30日付で退職されました。

『日本の福祉を築いたお坊さん』 日本福祉大学を創った鈴木修学上人の物語

星野貞一郎著・中央法規出版・新書版・160頁・800円（税別） 本書の著者印税のすべては「あしなが育英会」に寄付されています。

## 子どもの育ちを支える



写真提供・昭徳会

児童養護施設・名古屋養育院  
～子どもたちが安心できる環境を提供するために～

児童養護施設に入所する子どもは、さまざまな事由によって家庭から離れて生活することを余儀なくされます。慣れない環境で生活する子どもは不安定な心持ちになりやすく、社会に対して不信感を抱きやすい状態にあります。子どもがそれを率直に表に出すことはまれで、たいいの場合は職員への暴言や暴力、子ども同士の圧力関係、あるいは不登校、引きこもり等、別の形に変えて表出されます。

子どもたちは、安心感の保障される環境を欲しているのです。名古屋養育院では、子どもに「安心できる環境」を提供するために、児童指導員・保育士・栄養士・調理員・臨床心理士が協働し、次のような支援を提供しています。

一つ目は、子どもの喜ぶ食事です。嗜好調査や子どもの食事中の様子を観察から得られた情報をもとに細かく分析し、子どもがごはんをおいしく、楽しく食べられるように援助します。

口の中に外からものを取り入れるという体験は、相手の考えを受け入れるということに通じます。食事を通して、他者に心を許すという情緒体験を育みます。

二つ目は、規則的な日課の設定です。子どもは家族と離れた生活を送ることによって「家族に見捨てられた」と傷ついています。家族への不信は日々の施設生活の中で、何らかの不満に形を変えます。とりわけ不公平さ、理不尽さといった、施設内でのルールに向けられる傾向にあります。それを緩和するために、規則性のある日課を設けます。子どもは安定した枠を繰り返し体験することによって、守られている感覚を育みます。

三つ目は、子どもの心地良い夢見体験の援助です。不安定な状態下では夢見の阻害、あるいは悪夢を見るといった事態を招き、情緒発達が阻害されます。そこで、眠れない子への添い寝

・紙芝居・絵本読み、あるいは個別の話し合いによる日常生活の悩みの解消などに努めています。

四つ目は心理療法です。子どもの心が不安定になる一因として、家族との接触が少ないために生じる家族像の希薄化がもたらすアイデンティティ形成の失敗が挙げられますから、子どもが自己の存在について考える機会を、心理療法によって提供しています。

児童養護施設にいる子どもたちは、日々不安や苦悩を抱えて生きています。児童養護施設の支援者は、子どもたちの不安の受け皿にならなくてはならないのです。子どもたちの不安の量と支援者の受け皿の許容量のバランスを考えた上で、子どもにとって「安心できる環境」とは何かを日々考え続けています。

児童養護施設・名古屋養育院

心理療法担当職員 永草光一

# 持続可能な「ふくし社会」を担う「ふくし・マイスター」の養成

## 「日本福祉大学の新しい教育プログラム」の取り組み

日本福祉大学では、2015年度より全学部の学生を対象に、卒業時に「ふくし・マイスター」の修了証を授与する、新しい教育プログラムに取り組んでいます。

「ふくし・マイスター」とは、「ふくし」の視点を身につけ、ボランティア精神とリーダーシップを発揮して、地域の「ふくし」課題解決に取り組むことができる人材のことです。

「ふくし」とは「ふつうのくらしのしあわせ」。

今の日本の地域社会には、「ふくし」に関わるたくさんの課題が山積しています。持続可能な「ふくし」社会を担う人材が今こそ必要です。本学の3つのキャンパスがある知多半島も例外ではなく、まるで日本社会を凝縮しているようです。

例えば、子どもの貧困問題や認知症の人々が地域で暮らし続けるための支援はどうあるべきか、地域や住民はどう課題解決のために立ち向かっていくのか。

また、家族やコミュニティの変化の中で、孤立の問題も深刻化しています。誰もが「ふつうのくらし」ができる街づくりのために、地域や住民は具体的に何を行って

いくべきなのか等々。もちろん専門職としてどう関わっていくべきなのかといった視点もありますが、地域に暮らす住民の視点に立つて、問題を理解し、解決していく手法について総合的に学ぶプログラムです。

近年、大学は従来の教育・研究にとどまらず、地域が直面しているさまざまな問題を、行政や地域団体と連携して解決にあたる、「地域の中核的存在」となることが期待されています。以前より地域との連携を重視してきた本学も、キャンパスのある美浜町・半田市・東海市と包括協定を締結し、連携して地域課題に取り組んできました。

また、学生たちの教育においても、教室の中での学びだけではなく、地域に向き、地域の人々とともに、課題解決に取り組むことができる能力の育成が、大変重要視されています。

文部科学省も、地域社会に貢献する優れた地域連携教育を行う大学を、「地（知）の拠点」と認定し支援を行っています。本学もこの「地（知）の拠点」の認定を受け、「ふくし・マイスター」養成プログラムを、その



写真提供・日本福祉大学

中心事業と位置づけて取り組んでいます。

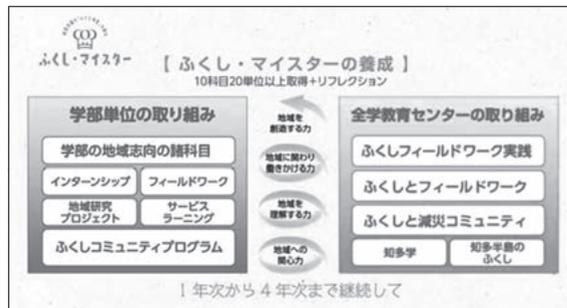
これは、「地域に根ざし、世界を目指す『ふくしの総合大学』」を掲げる本学のこれまでの実績と、本学ならではの養成プログラムが高く評価されたものと考えています。

下図にあるように、4年間かけて、地域問題に焦点をあてた指定科目を開講し、半数以上の学生たちに「ふくし・マイスター」を授与する目標を持っています。

知多半島は、数多くのNPO法人や市民団体が地域活性化、子育て支援、高齢者・障害者支援、若者の就労支援などに取り組んでいる地域として、全国から注目をされています。

学生たちは地域に向き、そういった人たちから学び、ともに活動し、ほめられたり、時には叱られたりしながら、知識だけではなく、さまざまな経験も積んでいくこととなります。

卒業後は、知多半島での学びを全国各地に持ち帰り、地域で活躍できる人材になってほしいと思います。そのことは、「建学の精神」にある「悩める時代の苦難に身をもって当たり、大慈悲心・大友愛心を身に負うて、社会の革新と進歩のために挺身する志の人」の輩出の実現にもあたる。そんな強い思いを込めて、このプログラムを推進しています。



幸せの種まきⅡ一人が一人を

〝いつも近くにいてあたりまえ〝  
 になっっている人に、

感謝の気持ちを伝えましょう

〝あの時もつとしてあげればよかった〝と後悔  
 するのが一番残念なことです。

大乗山 法音寺

「：あなたがドアを出て行くのを見るのが最後だとわかっていたら、私はあなたを抱きしめて、キスをして、そしてまたもう一度呼び寄せて抱きしめただろう。」『最後だとわかっていたら』（サンクチュアリ出版）

ノーマ・コーネット・マレットというアメリカ人女性が亡くなったわが子を偲んで書いたこの詩は、2001年9月11日の「同時多発テロ」の後、チェインメールとして世界中に拡散されたそうです。翻訳した佐川睦さんは次のように語っています。

「愛する人を失った時、どんなに心を尽くしても自分の足りなさを嘆かずにはいられない。それはもしかしたら、その人を忘れないでいたいという心の表れなのかもしれない」

ふと、お寺に参詣される方々の思いにふれられたような気がしました。愛する家族を失った時の「もつとしてあげられたはずなのに」という感情が、人をお寺に向かわせるのかもしれない。また、心のどこかにいつも〝今日が最後になるかもしれないという思いがあるからこそ、今日一日を完全に生きよう」という法音寺の教えが心に響きます。詩の最後はまさに私たちが実践すべきことでした。

「私たちは忘れないようにしたい：若い人にも、年配の人にも、明日は誰にも約束されていないのだということ。を：〝ごめんね〝や〝許してね〝や〝ありがとう〝や〝気にしないで〝を伝える時をもとう」読み終えて、不覚にも涙してしまいました。



# か あ 母さんってたいへん

竹中 淳





どようび  
土曜日

おばあちゃんと  
あなたたち三人で  
留守番できる？

うん ボクに  
まかせてよ！

あんたが  
一番世話  
がやけるん  
だけど

冷蔵庫に  
つくり置き  
しといたから  
温めて食べてね

日曜の夕方  
には帰れると  
思います  
よろしくね

さあてと…  
洗いなんでしょう  
かね

いいわよ  
私がやるから

蓮 お風呂  
わかつて

OK!

わたし 今晚  
ちよっと  
熱っぽいから  
お風呂よすわ

どうしたの  
カゼ？







おこづかい  
ふ 増やしてもらわ  
なきや あわないや

母かあさんの仕事  
つて たいへん  
なんだ



もう ダメ  
死しにそう



私わたしはおこづかい  
なんかもらってない  
のに 毎日  
あなたたちの  
めんどろを  
みてんのもよ



冗談じよたんじゃ  
ないわ!



いいえ  
きょうは  
げつようび  
月曜日

パパ

あれ?  
もう朝あさ?...  
今日けふつて  
日曜日にちようびだよ



ボク  
寝ねちやった

なあーんだ  
母かあさん もう  
帰かえってた  
んだね



母かあさん  
なんで  
起おこして  
くれな  
かったの!?



九時じゅうじ過ぎてる  
ち遅ち刻こくだ!



えー うそ?  
月曜日げつようび!!  
学校がっこう  
じゃん...



…もう  
いいよ 学校へ  
行こうと



起きて  
こなかったから  
かたづけた

朝ごはんは？



も〜



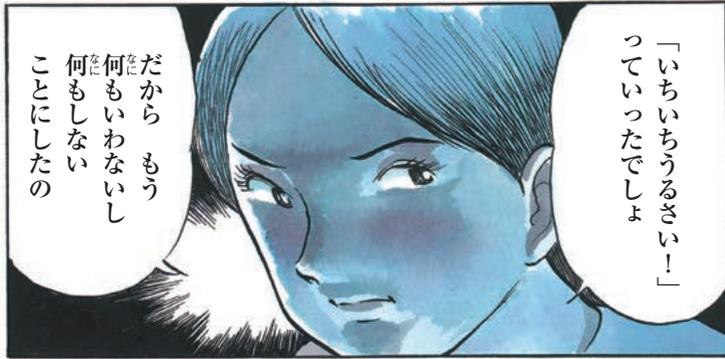
げっ



自分で  
干したでしょ  
今雨よ



あつ  
体操着…  
母さん  
ハンカチ…  
ティッシュは  
どこだっけ？



だから もう  
何もいわないし  
何もしない  
ことにしたの

「いちいちうるさい！」  
つていったでしょ



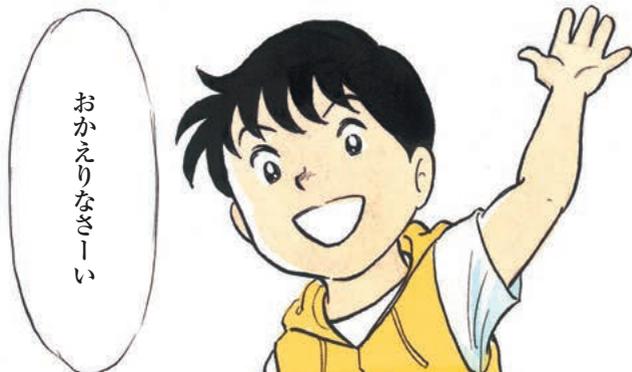
雨だつて  
知つてたら  
なんで  
取りこんで  
くれないの!?



ごめんなさい  
だから もう  
そんなこと  
いわないで…



か 母さん…  
怖いよ  
いつもと  
ちがう



おしまい

# 法音寺関連書籍のご案内

## 青山書院刊

東京都杉並区西荻北5-4-1

### 妙法蓮華経略義 鈴木修学 著

A5版上製・863頁・定価6,000円（税込）

### 無量義経略義 鈴木修学 著

四六版上製・165頁・定価2,000円（税込）

### 仏説観普賢菩薩行法経略義

鈴木修学 著

四六版上製・165頁・定価2,000円（税込）

### 撰法華経略義 鈴木修学 著

A6版皮製・101頁・定価700円（税込）

### 仏教聖語の解説 鈴木修学 著

B6版・230頁・定価1,800円（税込）

### 道徳と宗教 鈴木修学 著

B6版・209頁・定価1,000円（税込）

### 教育まんが

B5判 平均64頁 定価各600円（税込）

八正道の話 因縁の話 菩薩行の話  
功德の話 お彼岸のはなし 十界の話  
十王の話 定価1,000円（税込）

— その他多数。お問い合わせください。

## 山喜房佛書林刊

東京都文京区本郷5-28-5

### 鈴木修学先生の南無妙法蓮華経

浅井圓道 著

四六版上製・202頁・定価1,600円（税別）

### 大乗山法音寺三徳開教百年史

(1) 安立大法尼の時代

A5版・490頁・定価4,000円（税別）

(2) 宗玄大徳の時代

A5版・516頁・定価4,000円（税別）

(3) 御開山上人の時代

A5版・628頁・定価6,000円（税別）

(4) 第二世日達上人の時代

A5版・714頁・定価7,000円（税別）

(別巻) 仏教感化救済会の信仰

A5版・272頁・定価3,000円（税別）

## 中央法規出版刊

東京都台東区台東3-29-1

### 福祉を築く —鈴木修学の信仰と福祉—

西山茂・秦安雄・宇治谷義雄 共著

A5版・224頁・定価3,200円（税別）

### 日本の福祉を築いたお坊さん

星野貞一郎 著

新書版・160頁・定価800円（税別）

※本書の著者印税のすべては、著者のご意志により

「あしなが育英会」に寄付されることになっております。

### まんが・法音寺物語

法音寺広報委員会 企画

上＝安立大法尼の時代

中＝宗玄大徳の時代

下＝御開山上人の時代

B5版・96頁総カラー・定価各巻1,000円（税別）

## 仏教タイムス社刊

東京都新宿区市谷町2-7

### 大乗山法音寺の信仰と福祉

西山茂・小野文瑠・清水海隆 共著

A5版・205頁・定価3,200円（税別）

### 凡夫を菩薩に転ずる僧伽

仏教タイムス編集部

A5版・132頁・定価800円（税込）

### 大乗山法音寺の源流と近現代仏教福祉

浜島典彦・清水海隆 共著

A5版・60頁・頒価500円（税込）

お問い合わせは法音寺事務局、又は各支院・  
布教所にどうぞ…



# 自説誓言

一人を導く功德は広大です  
是非一人は導きましょう

写真・法音寺大本堂

《山首上人の大荒行御成満奉告法要の砌》

## 日蓮宗大乘山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135  
http://www.houonji.com FAX.052-831-9801

講話日

毎月7日・17日・27日  
午後1時30分



### 法音寺の社会福祉・教育事業



徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

#### 社会福祉法人 昭徳会

■児童養護施設

駒方寮  
名古屋養育院  
名古屋若松寮

■障がい児入所施設

小原学園

■障がい者支援施設

小原寮  
泰山寮

■特別養護老人ホーム

安立荘  
高浜立庄  
小原安立

■障がい福祉サービス事業

授産所 高浜安立

■軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)

ケアハウス 高浜安立

■軽費老人ホーム

ケアハウス 大阪安立

■養護老人ホーム

養護老人ホーム 高浜安立

■自立援助ホーム

慈泉寮

■保育所

駒方保育園  
光徳保育園  
天王保育園

法人本部 〒466-0832 愛知県名古屋市昭和区駒方町4-10 TEL(052)831-5171  
http://www.syoutokukai.or.jp

我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

#### 学校法人 日本福祉大学

■日本福祉大学大学院

■日本福祉大学

■日本福祉大学中央福祉専門学校

■日本福祉大学附属高等学校

法人本部 〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6 TEL(0569)87-2211  
http://www.n-fukushi.ac.jp



法音・平成29年6月号・No.572・平成29年6月1日発行

発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会

非売品／印刷・(株)一誠社